

● 経営の改善と課題解決に向けて

◆ 事業規模の拡大

キャベツ2倍増, ハクサイ3倍増, 新たにシロウリとニンジンの栽培

◆ 販売方法の工夫


1次加工品の出荷, 新商品の共同開発 など

◆ 人材の育成

農業経験のない高齢者を対象にした「**農業塾**」の実施

◆ コーディネーター の確保 ※緊急雇用創出事業補助金(経済産業省)を活用

農業者が農業に専念できる環境づくり



農家8戸で45名, 柏農えんで22名雇用(延べ人数:8月1日現在)

● ハクサイ・キャベツの栽培

- ◆ 栽培課程の移植、定植、除草、収穫の作業において就労
- ◆ 農業塾で学習した知識・技術を活用
- ◆ 9月～2月までの6ヶ月間の作業
- ◆ 生産物は食品加工会社、学校給食へと出荷する



● シロウリの栽培と加工

- ◆ シロウリを栽培し，収穫物を1次加工して食品加工会社へ出荷する
- ◆ 高齢者は，収穫作業とシロウリの1次加工業務で就労
- ◆ 7月～8月の1ヶ月間の作業



ハウス内でのシロウリ



両端をカットしたシロウリ



仕上げの塩漬け作業

● 「農業塾」の実施

- ◆ 農業者による、質の高い人材を確保する為の、人材育成システム
- ◆ 1年を通して実地研修と座学を実施することで、農業に必要な最低限の知識・ノウハウを習得
- ◆ 農業分野での就労を希望する者のみを対象としており、受講料として、今年度は20,000円を徴収
- ◆ 参加者16名のうち、10名が既に就労済み
- ◆ 就労する前に「意欲のある者」「農業分野の仕事ができる者」を判断する為のフィルターとしても機能



● 成果

1. LLP方式による新たな事業展開

対外信用力による新たな販路開拓(契約先確保), 個人農業者では踏み出せない農産加工分野への参入, 耕作放棄地の活用

2. 研修システム(農業塾)の構築

農業に対する理解を座学と実地により学び, 農業者と就労希望者とのミスマッチの解消と, 農業の知識・技術の習得

3. 高齢者の働き方の発見～農業経営のサポート～

ルーティンワークが主であるが, 農繁期の対応に寄与
※農業は, 作業時間帯や天候の影響など, 時間のある高齢者に適している

4. 高齢者の生きがいづくり

「週数回, 数時間であるが, 生活にはりが生まれた」「皆で汗して働くなかで, 仲間ができた」等の感想が多くあり

● 今後の課題

1. 高齢者の受け入れ体制の確立

多くの高齢者が農業現場で就労するには、受け入れ体制の拡充が不可欠
⇒ 高齢者雇用を組み入れた事業戦略の構築

2. 即戦力の育成・確保

事業規模の拡大にはより知識と技術を身に付けた人材(即戦力)が求められる
⇒ 研修制度(農業塾)の充実と農業現場での経験蓄積による人材育成・確保

3. LLP柏農えんの運営維持

コーディネーターの人件費が組合運営を圧迫
⇒ コーディネーターの人件費を賄うための方策の検討